



2013年6月19日

オバマ大統領のスピーチについてのコメント

**核兵器削減でリスクは減らせるだろう。だが禁止条約こそが喫緊の課題だ**

即日発表

ジュネーブ発

[核兵器廃絶国際キャンペーン \(ICAN\)](#) は、オバマ大統領が本日ベルリンで行った、核兵器のない世界への呼びかけと米ロ両国の更なる核兵器の削減の意向に関する発表を歓迎する。しかしながら、国際的に大きな焦点となりつつある、核兵器の使用による人道的な結末という観点からすれば、核兵器には禁止と廃絶が必要である。

オバマ大統領のスピーチは、核兵器が、今日の国際安全保障環境において何ら実地的な用途のない「使えない兵器」であるとの認識を広めることに資するものだ。それにもかかわらず、ひとたび核兵器が使われれば、私たちは恐るべき人道的な結末に脅かされることになる。核兵器は条約による禁止が行われていない唯一の大量破壊兵器であり、ICANは、そうした兵器が廃絶される枠組みを提供する条約の実現を求めるものである。

ICANの国際運営委員会のベアトリース・フィンは、「オバマ大統領のスピーチは、他の多くの国々や国際機関そして市民社会が、核兵器の使用がもたらす受け入れがたい人道的な影響に焦点を当てている時に発表された。核兵器による民間人の被害のレベルを考えると、使用と生産そしてその貯蔵を禁止する条約は、喫緊の課題である」と述べた。

本年すでに、核兵器による人道的な影響に焦点を当てた国際的な議論が行われ、そのアプローチには幅広く地域を超えた支持が集まった。オバマ大統領が表明した核兵器削減の意向は、核兵器によるリスクの減少に貢献しうるものだが、多くの核兵器国で現在進行中の核兵器近代化計画や、核兵器に依存する安全保障政策に再考を迫るものではない。

都市部で一発でも核兵器が爆発したならば、何十万人もの人命が瞬時に失われ、それ以上の人々が生命にかかわる切迫した困難な状態に置かれることになる。さらに多くの核兵器が使われるような状況が生じれば、気候変動により国際的な穀物生産が打撃を受け、紛争地域から離れた国においてさえ人々が飢餓に陥るようなことも起こりうるのだ。

「核兵器の爆発がもたらす影響は、国境の内側にとどまるものではない。誰が所有しようとも、それは真に国際的な関心事項だ」と、ピースボート共同代表でICANの共同代表を務める川崎哲は述べている。「今回の演説は、核兵器国や核の拡大抑止のもとにある国々だけでなく、全ての非核兵器保有国を含めたすべての国々に行動を促すべきものだ。禁止交渉によって、核兵器のない世界という目標に向けた大胆で具体的なステップに踏み出すべき時は今である」